学校番号	T0301

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　改訂版　家庭総合　（第一学習社）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭科で学ぶことは日常生活に直結しています。
精神的にも学習面でも、日常生活をより豊かにするために、積極的に毎時間の授業に参加してください。
毎回の授業プリントの振り返りはその時間に感じたことや疑問に思ったことなどをしっかりと書くことで、より授業内容を身近に感じてもらう事が出来ると思います。
必修科目で学ぶ期間は２年間です。楽しく興味を持って取り組んでください。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
人の一生にわたる発達と営みを総合的に捉え、家族や家庭の意義、社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な知識を得ると共に、それらに関わる技術を体験的・総合的に身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
家庭や地域社会及び社会における問題を生活の中から見つけ、課題を設定して、解決策を考え、実践したものを評価・改善し考察したことに基づいて論理的に表現するなど、一生を通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
様々な人々と協労し、より良い社会の構築に向け、地域社会に参加しようとすると共に、自分や家庭及び地域の生活の向上に主体的に参加しようとする実践的な態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる人の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、主体的に生活を営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費及び環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身に付けている。	生涯を通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、それに向けての解決策を考え、実践を評価し、また改善、考察したことを基に論理的に表現しようとする力を身に付けている。	様々な人々と協労し、より良い社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、あるいは振り返り改善し地域の活動に参加し、自分や家庭、地域社会の生活を創造し、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	初めに	・家庭科を学ぶにあたって 「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方などが紀州の方法、評価の方法を理解する。	家庭科の学習がキャリア形成につながる事について考えを深め、これから始まる学習にたいする目標がしっかりと把握できている。	プリント 振り返り		観察
	第Ⅰ章	これからの生き方と家族 第1節　生涯の生活設計 ・生涯発達する自分 ・青年期を生きる ・働くことについて ・成形―豊かな人生に向かって 第2節　家族・家庭と社会との関わり ・家族・家庭・世帯とそれらの働きについて ・結婚と変化する家族 ・家族の関する法律 ・働くことについて	a:自分について客観的に知り、生涯を見通して人の一生について考え、それぞれのライフステージごとの特徴を理解する。 将来の家族や家庭について資料を調べる事ができ、自分の将来に仕事の意義について理解している。 b:家庭生活を支える法律や社会制度などについて考え、まとめるたり、発表したりしている。 c:固定的な性別役割分業意識を見直し、多様な生き方を認め積極的に家族・家庭と社会との関わりを考えようとしている。	定期考査 レポート提出	課題	レポート(資料の理解と関心・振りかえり)
	第2章次世代をはぐくむ	第１節 ・子どもの発達 ・次世代をはぐくむ ・命の始まり ・住幼児の心身の発達 第 ２ 節 ・親と子どものかかわり ・乳幼児の生活と安全・子どもの成長と遊び	a:生命の尊さ、子育ての意義の重要性に理解し、こどもの心身の発達や生活と環境の変化と子どもを産み育てることの意義、社会・地域・親の果たす役割について考え、課題を見出し、まとめることができる。 b:児童虐待や育児不安の事例などを通して原因及び解決策について考えを深めようとしている。 c:　母体の健康と子どもの心身の発達について関心を持ち、生命の尊さ、子育て家族の果たす役割や子どもを取り巻く環境の変化について課題を見出しまとめることができる。	定期考査	レポート	パフォーマンス課題(幼児向け絵本(おもちゃ)などの)制作提出

後期	第3章充実した生涯へ	1 超高齢社会を生きる 2 人生の課での高齢期をとらえる 3 高齢期の生活と高齢社会を支える仕組み 4 充実した高齢期へ	a：高齢社会現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活にていて理解している。高齢者疑似体験を通して高齢者と適切にかかわることができる。 b: 高齢者や高齢者を取り巻く社会について課題を見出し、解決を目指して思考を深め思いやりを持って接する事の大切さを理解している。 c:高齢社会の現状と課題、高齢さの心身の特徴や生活などに関心を持ち高齢者の生活について考えようとしている。	定期考査	課題レポート	パフォーマンス課題(人生100年時代の人生設計) レポート
	第4章ともに生きる	1 社会保障制度と社会的連帯 2 人の多様性と社会参加 3 自分らしい生き方と共生社会	a:社会福祉の基本的な理念や内容について理解していて、共生社会を実現するために必要な知識を身につけている。 b:社会制度の理念と内容やボランティアのあり方について考えを深め,社会の一員として、共生社会を実現するために何ができるか考え、工夫している。 c:共生社会に時関心を持つとともに、社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動を支えあう活動など、主体的に行動しようとしている。	定期考査	レポート	レポート
	第8章経済生活をつくる	1節 私たちの暮らしと経済 1 人生とお金 2 家庭の収入・支出とリスク管理 3 持続可能な生活と将来への備え	a:生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 b:経済的自立と職業について考えを深めている。消費行動における意思決定について具体的事例を踏まえて主体的に考え、適切に判断することができる。 c:生涯を見通した自己の生活設計について考え工夫し、まとめることができる。	定期考査	課題	レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度